

第3 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 高等学校学習指導要領では、外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにすることを目標としていることを踏まえて、4技能のうち「読むこと」「聞くこと」の中でこれらの知識が活用できるかを評価する。したがって、発音、アクセント、語句整序などを単独で問う問題は作成しないこととする。
- 「リーディング」「リスニング」ともに、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）を参考に、各CEFRレベルにふさわしいテキスト作成と設問設定を行うことで、A1からB1レベルに相当する問題を作成する。また、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況の設定を重視する。
- 「リーディング」については、様々なテキストから概要や要点を把握する力や必要とする情報を読み取る力等を問うことをねらいとする。表記については、現在国際的に広く使用されているアメリカ英語に加えて、場面設定によってイギリス英語を使用することもある。
- 「リスニング」については、生徒の身近な暮らしや社会での暮らしに関わる内容について、概要や要点を把握する力や必要とする情報を聞き取る力等を問うことをねらいとする。音声については、多様な話者による現代の標準的な英語を使用する。
読み上げ回数については、英語の試行調査の結果や資格・検定試験におけるリスニング試験の一般的な在り方を踏まえ、問題の数の充実を図ることによりテストの信頼性が更に向上することを目的として、1回読みを含める。十分な読み上げ時間を確保し、重要な情報は形を変えて複数回言及するなど、自然なコミュニケーションに近い英語の問題を含めて検討する。全ての問題を1回読みにする可能性についても今後検証しつつ、当面は1回読みと2回読みの両方の問題を含む構成で実施することとする。
- グローバル人材の育成を目指した英語教育改革の方向性の中で高等学校学習指導要領に示す4技能のバランスの良い育成が求められていることを踏まえ、「リーディング」と「リスニング」の配点を均等とする。ただし、各大学の入学者選抜において、具体的にどの技能にどの程度の比重を置くかについては、4技能を総合的に評価するよう努めるという「大学入学共通テスト実施方針」（平成29年7月）を踏まえた各大学の判断となる。

2 各問題の出題意図と解答結果

本部会では上記の方針を踏まえ、高等学校卒業段階で到達すべき英語力を公正かつ正確に測定する問題作成に向けての検討を継続的に行ってきた。令和6年度共通テストについては、昨年度までに実施した共通テストの結果も踏まえ、問題形式や内容を分析し、各大問で測るべき言語能力を検証した上で、それらの能力を様々な方法で問うことができるよう配慮した。また、実際のコミュニケーションを重視するという観点から、問題の指示文等も英語とした。

第2問のように、概要や要点を把握することに加えて、推測したり、事実と意見を整理したりしながら読む問題、第3問のように、イラストなどの視覚情報を参考にして、概要・展開を把握する問題、第4問のように、複数の情報を読み取り、論理の展開や書き手の意図を把握する問題など、思考力・判断力・表現力等を測れるような問題作成を工夫した。また、試験全体を第1問～第6問の6つの大問で構成することを継承し、セクション数（中間を含む）は10、総解答数49、配点2～

3点という構成内容で出題した。

第1問 Aは、簡単な語句や平易で短い文で書かれている文章を読み、情報を理解する力を測る。

2つのハイキングコースについて書かれたチラシの情報を読み取る問題である。問1は、チラシに書かれていることを、問2は2つのコースの共通点を読み取る問題である。Bは、留学先のアメリカで、学校のウェブサイトで見つけた3つのボランティア活動に関する案内を読み、それぞれの活動の相違点や類似点を把握し、情報を理解する能力を測る。難易度は適切で、識別力も比較的高い問題が多かった。

第2問 Aは、アメリカの大学で自転車通学をするという設定で、自転車店のメンテナンスプランに関する広告を読んで設問に答えるものである。本文には、導入部分に続いてプランの内容とそれに対する利用者の声書かれており、概要や要点を捉えたり、情報の比較をしたり、事実や意見を整理したりする問題である。問1は店の考えについて正しい情報を選択する問題、問2はメンテナンスプランの共通点を選ぶ問題、問3は利用者の意見を読み取る問題、問4・5は広告に書かれていることを基に推測できることを選択する問題となっている。このように、選択肢の記述内容が事実か意見かだけでなく、広告に記載された情報を基に推論させる問題も含んでいる。Bは、イギリスの町で実施されている交通機関のポイント制度に関する紹介を読み、概要や要点を捉えたり、推測したり、事実と意見を整理したりする問題である。設問では紹介されているポイント制度について正確な読み取りを要するが、問2では書き手の意図を推測することが、そして問4では事実と意見を意識しながら読むことが求められる。A、B共に事実と意見を意識しながら読むだけでなく、書かれていることをもとに推測する判断力や思考力が求められる問題である。Aはアメリカ英語、Bはイギリス英語を用いたが、違和感なく読めたものと思われる。また、共におおむね識別力のある問題であった。

第3問 Aは、旅行先で一人で外食することについて書かれたブログを読んで概要を把握する力を測る問題である。問1では書き手の心情を読み取ること、問2では内容に基づいて該当するテーブル席のレイアウトの絵を選ぶことが求められる。Bは、クラスメイトが書いたブログを読んでリアクションをするという設定で、クラスメイトが引っ越しについて書いたブログを読む。家具や家電を配達してもらうタイミングに加え、買い物や自身の予定などについて書かれているため、受験者はその流れを把握する必要があり、問1ではその順序について問われている。問1はこれまでと違う形式の問い方であったが、難易度、識別力共に比較的安定していた。また、問2ではブログへのリアクションとして適切ではないものを選ぶことが求められる。A、B共に難易度は適切であった。

第4問 平易な英語で書かれた2つの素材を読んで、情報を理解して整理する力を問う。ここではコミュニティセンターの家族向けのイベントでボランティアをするにあたり、ボランティアに向けて書かれた資料を読んでミーティングのためのメモを作成するという設定である。イベント全体の概要が書かれた資料と、新しいアクティビティの説明が書かれたものを読み、情報を整理して理解する力が問われる。例えば問3は、追加が必要となる用具の一覧の中で誤りを指摘する問題であるが、既に用意されている用具とアクティビティの説明の中に記載されている使用用具とを比較しながら足りないものを導き出すことが求められる。比較的難易度が高かった。

第5問 平易な英語で書かれた物語を読み、その概要を把握する力を問う。友人との初めての海外旅行での体験について書かれたエッセイを読んで、それについて発表をするためのメモを用意する目的で情報を整理する問題である。例えば問2は旅行中の友人に関する描写がどのように変化したのかを読み取り、時系列に並べさせることで話の展開の理解度を問う内容となっている。また問3・4では特定の出来事の解釈を、問5では旅行から学んだことを解答するなど、直接は述

べられていないことを読み取る力を要する問題である。総じて識別力が高い問題が多かった。

第6問 身近な話題やなじみのある社会的な話題に関する記事を読んで文章の論理展開を把握したり、概要や要点を捉えたり、情報を整理したり、要約する力を問う問題である。Aは、信じ込みに関する記事を読み、発表のためのメモを作成する場面である。パラグラフごとの概要を掴んだり、本文の内容を基に、明示的には書かれていない情報を判断したりする力が求められている。Bは、新しく開発された様々な特徴を持つ繊維についての記事を読み、プレゼンテーション用のスライドを完成させる問題である。問1はプレゼンテーションのタイトルとしてふさわしいものを選ぶ問題で、問2・3では本文中で述べられている実験について、結果が示唆することや実験の流れを把握することが問われている。また問4は本文で直接述べられていないが推測できるものを選ぶ問題で、深い読解力が求められ難易度が高い問題となった。総じて難易度は高めであったが、識別力のある問題が多かった。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

各方面からは比較的肯定的なコメントが得られた。特に高等学校教科担当教員（以下「高校教員」という。）からは、「外国語の語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できるかを評価するテストとして適切であった」、また「様々なテキストから概要や要点を把握したり、必要な情報を読み取ったりする問題に加え、事実と意見を整理しながら読む問題や、複数のテキストを関連付ける問題、与えられた文章に対するコメントの適切さを判断する問題、さらには、文章中の情報を統合して推論する問題など、コミュニケーションの受信者及び発信者としての思考力・判断力・表現力等を適切に測る出題となっており、幅広い受験者層に対して識別力のあるテストとなっている」など、高い評価を得た。さらに、「実際のコミュニケーションを想定した具体的な目的や場面、状況などが設定され、それらの場面や状況において目的を達成するためにどのように思考し、判断して読み進めていけばよいか」が設問として表されており、日々の授業づくりや言語活動を行う際の参考となる」との意見があった。共通テストに求められている、それぞれの場面設定とタスクに応じて読む目的を明確にし、読んだことの概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることで、実践的なコミュニケーション場面において「その場で読み取る」能力とともに思考力・判断力・表現力等を測定する出題が教育現場に与える影響について、肯定的な意見が得られたことは大変喜ばしい。

教育研究団体からは、第2問Aについては『「広告」』、『「サービスの内容」』、『「コメント」』という3つの資料を示し、情報や意見を読み取らせるという構成は、日常生活における言語活動を反映したもので大変好ましく、出題方針を反映した良問であると考え、第3問Aについては「問2のイラスト問題は、大変工夫されて作問されており、これまでに余りなかった印象のもので見事な問題であると思われる」、そして第6問Bについては「興味深い内容であり、また、現代的なテーマであるので、受験者がこういった内容の英文にしっかり取り組んでいく動機付けになると思われる、良質な問題文であったと思われる」など、肯定的なコメントを得た。一方で、「作問の都合上から生じる不自然な表現や表記、あるいは解答上必ずしも必要でない情報等を可能な限り精査していただきたい」との要望がなされた。例えば第3問Aのイラストの問題は大変工夫されてはいるものの、イラストの中の記号の意味があいまいで、本文の内容とイラストを結び付けるのに時間を要した可能性があるとの指摘がなされた。受験者は、日常生活においても多くの情報に囲まれる中で目的に応じて読む力が求められており、本テストにおいてそのような思考力・判断力・表現力等をより適切に測ることができる質の高い問題を作成することが課題となる。

4 ま と め

「英語（リーディング）」は、全科目の中で最も多くの受験者が受験する科目であり、各方面からの関心が高い。共通テストにおいて「英語（リーディング）」は、大学教育の基礎力となる知識・技能の理解を問うのみならず、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことを重視し、一方で大問ごとにCEFRのA1からB1レベルまで難易度を設定し、幅広い受験者層に対応できる問題構成としている。各大問の指示文では、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況を設定し、より現実的な場面に即したリーディング問題となったと考える。

リーディングは、たくさんの情報をより多く頭に入れることではなく、それらの情報を頭の中で整理して深く理解し、必要に応じて考え、活用することである。また、テストにおいてたとえ同じ力を測る場合でも、その方法は多岐にわたる。受験者には日ごろから様々なタイプの英文に触れ、そこで得た情報を理解するだけでなく整理し活用しながら、目的や場面に応じた問いかけに柔軟に対応できるリーディングの力を付けることを意識してほしい。高校教員からの意見にも見られるとおり、本部会のそのような理念が教育現場に良い波及効果をもたらしつつあることは大変うれしいことである。今後も更に、英語のコミュニケーション能力育成に役立てることができれば幸いである。